

音声記録（抜粋）の反訳

録音日：2023(R5)0619

反訳者：野村一也（請求人）

[野村]

駐車場についてはね、（不明）もう一度、あなた方、確認してくださいよ。これが本当に町の駐車場なのかどうか。その上で、町の駐車場だったら、おかしいでしょう。

[坂野]

はい

[野村]

ね、住宅の中で、四六時中、自分のクルマ置く状態ってのは、おかしいでしょう。ね。ちゃんと指導しないと駄目だよ。緩めるからズルズルと行くんだよ。あと、あなた、おかしい、あんたおかしいこと言ってるけど。

[野村]

これ僕、今、余計なこと言ってるのは、あなた方が何も出さない、答えない。裁判するまで何もしないから、しょうがなく、僕は裁判を起こすんですよ。あなた方が出さないから。何をやっても無駄だからしょうがないから、最終手段なんですよ。僕は一つ一つ手順を踏んでる、正式なやり方をね。陳情だってそうだし、審査請求だってそうだし。1個1個、手順を踏んでやってるよ。あなた方は、審査請求の内容だって見てないしさ。ひどいもんだよ。信じられない僕は。

でね、坂野さん、あなた言ったよね。「公園の駐車場、看板で出てましたよね」と。確認しました？ 僕が言ってるのは、「どこに公益性があるの？」の話ですよ。事実上、公園機能を失っている。あなた方が、容認するから、いろんなことを。でも、容認してる内容は、到底、公益性があるように見えないよ。逆に言うと、ここの端々で言ってるやつは、狂言だよ。相手の言ってることは。何で相手が、「自分が騙された」と言ってることを、あなた方がカバーする必要があるんだ

よ。自己責任だよ、そんなの。でもどう考えても狂言だよ。

建築士は、建物規模の、規模とか、工事費とか、そんなのある程度わかるさ。狂言だよ、あいつの言ってること。何でそれを容認するんだよ。これ、オフレコだからね。別に僕は、これをもってね、今ね、証拠のないことを言ってるけども、わかりやすく説明してるだけでね。

[坂野]

（無言）

[野村]

看板ありましたか？

[坂野]

それも含めて確認中です。

[野村]

看板ないです。あそこは、どういうものであろうが、公園を、誰もが、利用できる状態にするのは当たり前で。看板が出てなかったら、そこは公園として認識されないんですよ。ちゃんと認識されて、駐車場が誰でも停めれる状態になってなければ、誰も利用できないですよ。やるべきじゃないんですか？「コンテナ移動しろ」と、「駐車場にクルマを四六時中、停めないで」と。やるんですか？それ。

[坂野]

確認します。

[野村]

いつ、

[坂野]

すぐに確認します。

[野村]

いつまで？

[坂野]

(無言)

[野村]

あなたがいつまでもね、「いつか」「いつか」と言ってそれを容認するんだよ。

「いつか」「いつか」で。いつかなんだから。いつでもいいんだよ。当たり前のようにやってるんだよ、あなた方。「いつか」「いつか」と。

[野村]

いつまで？

[坂野]

すぐにやります。

[野村]

信じられないよ。今月末までにね。月末までにね。公園の駐車場については、月末まで。